

専攻教育課程照合表

専門看護分野：クリティカルケア看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	申請 単位
専攻分野 共通科目	1. 危機とストレスに関する科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	クリティカルな状況にある患者と家族を理解するための代表的な理論を学び、衝撃的な体験や持続するストレスからの立ち直りを促す援助方法を探究する。	2	2
	2. 重症患者の代謝病態生理学に関する科目	病態治療論	急性・重症患者の身体機能を総合的にアセスメントし、適切な看護援助を実践するための病態生理および治療について学ぶ。	2	2
	3. クリティカルケア治療管理に関する科目	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	急性・重症患者の複雑な病態や身体機能に対して用いられる治療・処置などの全身管理について理解を深め、適切な援助を探究する。	2	2
専攻分野 専門科目	1. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅰ	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	クリティカルな状況にある患者と家族を心身統一体としてとらえ、回復を促すためのケアとケアが融合した看護介入の方法を探究する。	2	2
	2. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅱ	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	クリティカルな状況にある患者とその家族に生じやすい倫理問題を理解し、看護倫理や意思決定に関する諸理論をもとに問題解決のための援助方法について探究する。	2	2
	3. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅲ	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	クリティカルな状況にある患者と家族の身体的・心理的・社会的苦痛を緩和・軽減するための看護ケアについて学ぶ。	2	2
	4. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅳ	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	救命救急看護、集中治療看護分野の病態生理・治療・処置などの知識を深め、その分野における高度な看護実践について探究する。	2	2
実習科目	クリティカルケア看護実習	クリティカルケア看護学実習Ⅰ	クリティカルケア専門看護師に必要とされる教育、相談、調整、倫理調整が自立して実践できる能力を養う。	2	2
		クリティカルケア看護学実習Ⅱ	集中治療領域において、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について学び、クリティカルケア専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。	3	3
		クリティカルケア看護学実習Ⅲ	救急領域において、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について学び、クリティカルケア専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。	3	3
		クリティカルケア看護学実習Ⅳ	ポストクリティカル期の患者のケア調整やセルフケアに向けた教育的関わりを学び、専門看護師に求められる高度な看護実践能力を習得する。	2	2
				合計単位 24単位	

クリティカルケア看護学特論 I

2 単位 (春学期)

科目責任者 加賀谷 聡子 (本学教授)

1. 教育目的: クリティカルな状況にある患者とその家族の体験や苦悩を理解するための代表的な理論を学び、衝撃的な体験や持続するストレスからの回復を促す専門的援助方法を探究する。
2. 教育目標: 1) クリティカルな状況にある患者とその家族の体験や苦悩について理解を深める。
2) 衝撃的な体験や持続するストレスに対する身体的・心理的反応を説明する代表的な理論について理解する。
3) 理論を用いて事例を分析し、危機的状況からの回復を促す援助方法について述べることができる。
3. 教育内容:
 - ① ガイダンス
 - ②③ クリティカルな状況にある対象および家族の特性
 - ④⑤ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論
(ストレスコーピング理論 その1)
 - ⑥⑦ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論
(ストレスコーピング理論 その2)
 - ⑧⑨ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (危機理論)
 - ⑩⑪ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (悲嘆理論)
 - ⑫⑬ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (ソーシャルサポート)
 - ⑭⑮ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論の応用 (事例検討)
4. 教育の進め方: 講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法: プレゼンテーション (40%)、課題レポート (60%)

クリティカルケア看護学特論Ⅱ

2単位（春学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学講師）

1. 教育目的：クリティカルな状況にある患者とその家族を心身統一体としてとらえ、回復に向けたケアとケアが融合した看護介入の方法について探究する。
2. 教育目標：1)クリティカルな状況にある患者に対する援助関係を発展させるために必要な理論を学び、回復を促進するための看護援助の方略を探究する。
2)家族看護理論を学び、クリティカルな状況にある患者家族の援助に必要な看護援助の方法について述べるができる。
3. 教育内容：
 - ① ガイダンス
 - ②③ クリティカルな状況にある患者に対する援助（対人関係論・援助関係論）
 - ④⑤ クリティカルな状況にある患者家族の理解（体験理解とアセスメント）
 - ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者家族に対する看護支援
（家族看護論・エンパワーメント）
 - ⑧⑨ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助（急性呼吸不全）
 - ⑩⑪ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助（急性循環不全）
 - ⑫⑬ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助（中枢神経障害）
 - ⑭⑮ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助
（多臓器不全・ショック）
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

クリティカルケア看護学特論Ⅲ

2単位（秋学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的：クリティカルな状況にある患者とその家族に生じやすい倫理的問題について理解し、看護倫理や意思決定に関する諸理論を学び、問題解決のための援助方法について探究する。
2. 教育目標：1)クリティカルな状況において生じやすい倫理的問題について理解を深める。
2)患者および家族の意思決定を支え、倫理的問題を解決するための理論を学び、問題解決に向けた援助方法を探究する。
3)医療チーム内の倫理調整における専門看護師の役割について考察する。
3. 教育内容：
 - ① ガイダンス
 - ②③ 医療および看護倫理の歴史の変遷と倫理に関する諸理論
 - ④⑤ クリティカルな状況にある患者と家族に生じる倫理的問題
 - ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者と家族の意思決定支援
 - ⑧⑨ 脳死・臓器移植など最新治療を巡る倫理的問題
 - ⑩⑪ クリティカルな状況下の倫理調整における看護師の役割
 - ⑫⑬ クリティカルな状況下におけるエンドオブライフケア
 - ⑭⑮ クリティカルな状況下における倫理的問題に対する検討（事例検討）
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

病態治療論

2 単位（春学期）

科目責任者 東 利江（本学准教授）

1. 教育目的：急性・重症患者の身体機能を総合的にアセスメントし、適切な看護援助を実践するための病態生理および治療について学ぶ。
2. 教育目標：1) 生体侵襲を受け、臓器の急性機能不全に陥った重症患者の病態および治療について正確に理解する。
2) 生体反応を踏まえて、急性重症患者の複雑な身体機能を説明することができる。
3. 教育内容
 - ①② 生体侵襲を受けた患者の病態生理
 - ③④ 急性呼吸不全患者の病態生理
 - ⑤⑥ 急性循環不全患者の病態生理
 - ⑦⑧ 脳神経機能障害の患者の病態生理
 - ⑨⑩⑪ 多臓器障害患者の病態生理
 - ⑫⑬ 熱傷患者の病態生理
 - ⑭⑮ 麻酔による生体侵襲への影響
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

クリティカルケア看護学演習 I

2 単位 (春学期)

科目責任者 伊藤 有美 (本学講師)

1. 教育目的：急性・重症患者の複雑な病態や身体機能に対して用いられる治療や処置などの全身管理について理解を深め、患者・家族中心の看護を提供するための適切な援助を探究する。

2. 教育目標：1) 急性・重症患者に用いられる治療や処置の目的と根拠を述べることができる。

2) 複雑な治療や処置に伴う急性・重症患者の身体的・心理的变化を捉えて包括的にアセスメントすることができる。

3) 急性・重症患者に用いられる治療や処置の選択や評価について、Evidence Based Practice の観点から探究し、述べることができる。

3. 教育内容

- ①② 重症患者の栄養管理
- ③④ 重症患者の創傷管理
- ⑤⑥ 重症患者の体液管理
- ⑦⑧ 重症患者の薬物療法
- ⑨⑩ ICUにおける感染予防対策
- ⑪⑫ 人工呼吸管理中の患者の看護援助 (1)
- ⑬⑭ 人工呼吸管理中の患者の看護援助 (2)
- ⑮⑯ 非侵襲的人工呼吸療法および酸素療法中の患者の看護援助
- ⑰⑱ 補助循環装置装着中の患者の看護援助
- ⑲⑳ 急性期心臓リハビリテーションを実施する患者の看護援助
- ㉑㉒ 低体温療法中の患者の看護援助
- ㉓㉔ 集中治療を受ける患者の早期リハビリテーション
- ㉕㉖ 嚥下障害患者の評価とリハビリテーション
- ㉗㉘ 急性血液浄化法を受ける患者の看護援助
- ㉙㉚ 救急時の処置と看護援助

4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

初回の講義において進め方、課題について説明する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション (40%)、課題レポート (60%)

クリティカルケア看護学演習Ⅱ

2単位（秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学講師）

1. 教育目的：クリティカルな状況にある患者と家族の身体的・心理的・社会的苦痛を緩和・軽減するための看護ケアについて学ぶ。

2. 教育目標：1)クリティカルな状況にある患者と家族の身体的・心理的・社会的苦痛について理解を深め、アセスメントする知識を修得する。

2)クリティカルな状況にある患者と家族の苦痛を軽減するための理論と方法および評価について探究する。

3)クリティカルな状況にある患者と家族の苦痛を支援する専門看護師の役割および課題について理解を深める。

3. 教育内容：

- ① ガイダンス
- ②③ クリティカルな状況にある患者の全人的な苦痛の理解
- ④⑤ クリティカルな状況にある患者の症状アセスメント
- ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（薬物療法）
- ⑧⑨ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（鎮静について）
- ⑩⑪ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（せん妄について）
- ⑫⑬ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（補完代替療法）
- ⑭⑮ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（術後疼痛管理）
- ⑯⑰ クリティカルな状況にある患者に対する苦痛緩和の介入の評価
- ⑱⑲ クリティカルな状況にある患者の心理・社会的苦痛に対する援助
- ⑳㉑ クリティカルな状況にある患者に必要とされるコンサルテーションの実際
- ㉒㉓ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習1）
- ㉔㉕ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習2）
- ㉖㉗ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習3）
- ㉘㉙㉚ クリティカルな状況にある患者・家族に対して実施した苦痛緩和の援助の分析と評価（事例検討）・まとめ

4. 教育の進め方：講義・演習、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

病院においてベッドサイド演習を行い、講義で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、さらに事例検討を行い看護援助の方向性を見出す。ベッドサイド演習は杏林大学医学部附属病院にて実施する。

初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、レポート [ベッドサイド演習レポート、課題レポート]（60%）

クリティカルケア看護学演習Ⅲ

2単位（秋学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的：救命救急において様々な患者に対応できるように、病態生理、治療・処置に関する知識を深め、専門的な看護実践を行うための能力を養う。
2. 教育目標：1)救命救急看護の対象となる患者の看護問題に対して適切な看護援助を探究することができる。
2)救命救急看護の対象となる患者の看護援助について、最新の研究成果や知識を活用して考えることができる。
3)救命救急看護の対象となる患者の看護において、専門性を発揮していくために必要とされる専門看護師の役割と機能について探究することができる。
3. 教育内容：
 - ① ガイダンス
 - ②③ 救命救急治療を受ける患者・家族に対する初期対応（トリアージ）
 - ④⑤ ショック・CPA患者・家族のアセスメントと看護援助
 - ⑥⑦ 外傷患者・家族のアセスメントと看護援助
 - ⑧⑨ 熱傷患者・家族のアセスメントと看護援助
 - ⑩⑪ 脳血管障害患者・家族のアセスメントと看護援助
 - ⑫⑬ 急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助
 - ⑭⑮ 中毒患者・家族のアセスメントと看護援助
 - ⑯⑰ 移植患者・家族のアセスメントと看護援助
 - ⑱⑲ 救命救急看護に必要とされる看護理論
 - ⑳㉑ 救命救急看護に必要とされる具体的援助方法
 - ㉒㉓ 救命救急看護に必要とされる看護援助方法の検討（ベッドサイド演習1）
 - ㉔㉕ 救命救急看護に必要とされる看護援助方法の検討（ベッドサイド演習2）
 - ㉖㉗ 救命救急看護に必要とされる援助方法の検討（事例検討）
 - ㉘㉙㉚ 救命救急看護における高度実践看護師の役割の考察・まとめ
4. 教育の進め方：講義、演習、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
ベッドサイド演習を行い、講義や文献検討で学んだことを実際の看護援助場面で理解を深め、更に事例検討を行うことで看護援助の方向性を見出す。
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、レポート [ベッドサイド演習レポート、課題レポート]（60%）

クリティカルケア看護学実習 I

2 単位 (春・秋学期)

科目責任者 加賀谷 聡子 (本学教授)

1. 教育目的：クリティカルケア看護領域において、クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、専門看護師に必要とされる教育、相談、調整、倫理調整が自律して実践できる能力の開発をめざす。
2. 教育目標：1) 急性・重症看護専門看護師が果たす教育、相談、調整などの役割・機能について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、急性・重症看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら理解し、学ぶ。
2) クリティカルな状況にある患者・家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら問題解決をはかることができる。
3) 急性・重症看護専門看護師の役割開発を行うために必要な基礎的能力を養う。

3. 実習目標：

[実習目標と内容]

実習目標	実習内容
1. 教育 看護職者に対するケアの質向上のための教育的機能を果たす。	他の看護職者への教育を、講義・演習で培った知識や技術をもとに、指導者と共に実践する。
2. 相談 看護職者と他のケア提供者に対するコンサルテーション (相談) 機能を実践する。	複雑で困難な実践状況において、看護職者や他のケア提供者に対し、クリティカルケア看護の専門的立場での相談や意見の提供を指導者と共に実践し、問題への対処、解決を図る。
3. 調整 円滑なケア提供のためのコーディネーション (調整) 機能を実践する。	複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整を図る。
4. 倫理調整 倫理的な葛藤や問題が生じた場合に対処、解決を図る。	クリティカルケア看護分野における倫理的課題に対し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のため様々な検討を行い、調整を図る。

4. 教育の進め方：

- 1) 実習場において実習担当教員の指導と急性・重症看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。
- 2) 専門看護師の役割 (教育、調整、相談、倫理調整) について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画、修正をしながら実行する。
- 3) 専門看護師の役割 (教育、調整、相談、倫理調整) について実習した内容を事例に基づきレポートする。
5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院 (高度救命救急センター、集中治療室、ハイケアユニット他)
6. 成績評価方法：最終提出レポート (100%) にて評価する。

クリティカルケア看護学実習Ⅱ

3単位（春・秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学講師）

1. 教育目的：集中治療領域でクリティカルケアを必要とする患者に対する直接的な看護実践において、急性・重症看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得できるようにする。クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づく確な臨床判断ができる能力を養う。
2. 教育目標：
 - 1) クリティカルな状況にある患者・家族に対し、クリティカルケア看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと臨床判断ができる。
 - 2) 病態生理、治療に伴う臨床判断と高度なケア技術を融合させながら、クリティカルな状況にある患者および家族に対して看護実践ができる。
 - 3) 患者および家族に対して行った看護実践を論理的に評価し、今後の課題も含めて考察することができる。
3. 実習内容
 - 1) 複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成する。
 - 2) ケアプランに基づいて看護実践を行い、実践の結果を論理的に評価する。
4. 教育の進め方：
 - 1) 集中治療室にて治療を受けている複雑で困難な問題を有する患者を受け持ち、看護を実践する。
 - 2) 実習場において実習担当教員および急性・重症看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については、急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。
 - 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。また、適宜クリティカルケアチームメンバーや専門看護師、教員とカンファレンスをもち、実践の評価・検討を行う。
 - 4) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。
5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（集中治療室、外科系集中治療室他）
6. 成績評価方法：最終提出レポート（100%）にて評価する。

クリティカルケア看護学実習Ⅲ

3単位（春・秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学講師）

1. 教育目的：救命救急領域でクリティカルケアを必要とする患者に対する直接的な看護実践において、急性・重症看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得できるようにする。クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づいた確かな臨床判断ができる能力を養う。
2. 教育目標：1) クリティカルな状況にある患者・家族に対し、クリティカルケア看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと臨床判断ができる。
2) 病態生理、治療に伴う臨床判断と高度なケア技術を融合させながら、クリティカルな状況にある患者および家族に対して看護実践ができる。
3) 患者および家族に対して行った看護実践を論理的に評価し、今後の課題も含めて考察することができる。
3. 実習内容
 - 1) 複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成する。
 - 2) ケアプランに基づいて看護実践を行い、実践の結果を論理的に評価する。
 - 3) トリアージの場面に参加し、トリアージの内容を評価し、課題を明確にする。
4. 教育の進め方：
 - 1) 救命救急センターにて治療を受けている複雑で困難な問題を有する患者を受け持ち、看護を実践する。また、救急外来にて、医師およびトリアージナースの指導のもと、トリアージの場面に参加し、可能な範囲で実施する。
 - 2) 実習場において実習担当教員および急性・重症看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。
 - 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。また、適宜クリティカルケアチームメンバーや専門看護師、教員とカンファレンスをもち、実践の評価・検討を行う。
 - 4) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。
5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（高度救命救急センター）
6. 成績評価方法：最終提出レポート（100%）にて評価する。

クリティカルケア看護学実習Ⅳ

2単位（春・秋学期）

科目責任者 東 利江（本学准教授）

1. 教育目的：ポストクリティカルな状況にある患者に対する直接的な看護実践において、急性・重症看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得できるようにする。クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づいた確かな臨床判断ができる能力を養う。
2. 教育目標：1) ポストクリティカル期にある患者のケア調整やセルフケアに向けた教育的関わりができる。
2) 患者および家族に対して行った看護実践を評価し、今後の課題も含めて考察することができる。
3. 実習内容：
 - 1) クリティカルケア看護実習Ⅱで受け持った患者を引き続きポストクリティカル期で受け持ち、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成し、室の高い卓越した看護実践を行う。また、実践したケアに対する評価を行う。
 - 2) ポストクリティカル期にある患者のケア調整やセルフケアに向けた教育的関わりを行う。
4. 教育の進め方：
 - 1) クリティカルケア看護実習Ⅱで受け持った患者を引き続きポストクリティカル期で受け持ち、複雑で困難な問題に対する看護を実践する。
 - 2) 実習場において実習担当教員および急性・重症看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については、急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。
 - 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。また、適宜クリティカルケアチームメンバーや専門看護師、教員とカンファレンスをもち、実践の評価・検討を行う。
 - 4) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。
5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（ハイケアユニット、他）
6. 成績評価方法：最終提出レポート（100%）にて評価する。